

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	教員養成プログラムにおける授業実践の指導のあり方に関する研究
------	--------------------------------

研究代表者

氏名 上杉 嘉見	所属 教員養成カリキュラム 開発研究センター	職名 准教授
-------------	------------------------------	-----------

研究分担者

氏名 岩田 康之	所属 教員養成カリキュラム 開発研究センター	職名 教授
大竹美登利	総合教育科学系生活科学講 座	教授
矢嶋 昭雄	教育実践研究支援センター	教授
前原 健二	教員養成カリキュラム 開発研究センター	教授
金子真理子	教員養成カリキュラム 開発研究センター	准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、2010年度の新入生から導入された「教職実践演習」など、近年の日本の教員養成プログラムにおいて要請されてきている「模擬授業」的な授業実践に関わる指導の機会に着目し、その指導体制や運営、評価等のあり方について、国内の課程認定大学における動向をネーション・ワイドに把握し、課題を析出することを企図したものである。

具体的には、以下の二つのことがらに取り組んだ。

- (1)全国の大学における「教職実践演習」等における授業実践の扱いについての調査研究  
2014年の10月から11月にかけて、国公立大学で「教職実践演習」に散り組んでいる四年制大学(全586校)の担当者を対象に質問紙調査を行い、198件の回答を得た(回収率約35%)
- (2)全国の大学の教員養成関係者を対象としての参加型の研究会(ワークショップ)の開催  
2014年11月22日(土)に東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター会議室を会場として、教師教育実践交流ワークショップ「「教職実践演習」の運営をめぐる諸課題」を開催し、全国各地の国私立大学より約25名の参加を得て活発な情報交換とディスカッションを行った。

これらの分析を通じて、以下のような状況が明らかとなった。

- ①.「教職実践演習」の取組に関しては、大規模な総合大学(複数学部を抱える)で履修者数の多いところで特に運営上の課題が多く、「模擬授業」等の実践的な指導を行う機会が乏しい。
- ②. また、特に小学校の教員養成に取り組む大学(国立・私立)においては、凝集性の高い教育組織を持つこともあり、実践経験のある教員スタッフに関わる形で指導の実を挙げている例が見られる。
- ③. これとともに、いわゆる実技系(芸術・体育など)の比較的単科大学においては、教科内容それ自体に実技を含むことから、教科専門の先生による実践的指導が行われている例も見られる。

しかしながら、どの類型の大学においても、「教職実践演習」とその他の実践的な内容を持つ科目群との関係や、この科目の時期設定(四年次後期)に伴う履修上の困難など、共通する課題があることが明らかとなった。

## 研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

上記(1)の調査結果および(2)のワークショップ関連資料のうち公開して差し支えないものを中心に報告書（冊子体）を編集するとともに、ウェブサイト上で公開を行う。